



第14 - 2号

2014年4月10日

向ヶ丘遊園跡地利用に関する基本計画の見直しについて（お知らせ）

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：山木 利満）では、向ヶ丘遊園の跡地（川崎市多摩区长尾2 - 8 - 1他）利用について、昨今の事業環境を勘案した結果、2010年に策定した基本計画を見直すことを決定しました。

今後は、2004年に川崎市と締結した向ヶ丘遊園跡地の利用についての基本合意を踏まえ、再度川崎市と協議しながら新たな跡地の利用計画を策定してまいります。

向ヶ丘遊園跡地の概要は次のとおりです。

記

1．向ヶ丘遊園跡地の概要について

(1)所在地 神奈川県川崎市多摩区长尾2 - 8 - 1他

(2)敷地面積 約21万8千㎡

以上

< 参考 1 >

向ヶ丘遊園跡地の利用に関する川崎市との基本合意概要（2004年11月締結）

1. 環境共生を前提に、多摩丘陵の緑豊かな自然を次世代に残すため、川崎市および当社は一致協力して跡地の活用を推進する。
2. 跡地の活用が良好なまちづくりに寄与するよう、川崎市および当社は相互に協力し継続的に協議する。

< 参考 2 >

2010年3月策定の基本計画の概要

「向ヶ丘遊園ガーデン&レジデンス」をコンセプトとし、向ヶ丘遊園跡地に残された緑豊かな環境を育み、自然にやさしく、人々の暮らしに潤いと安らぎのある美しいまちづくりを目指す計画として、次のとおり、レジデンスや多目的施設、庭園などの整備を予定しておりました。

(1) レジデンス

都心近くの「別荘地を思わせる緑と静寂に包まれた街」をテーマにした庭園住宅の整備。
(戸建住宅：60戸、低層集合住宅：160戸)

(2) ガーデン

「向ヶ丘遊園の花と緑の歴史」を継承した、多目的施設や庭園等の整備。

< 参考 3 >

向ヶ丘遊園について

向ヶ丘遊園は、1927年の開園以来、75年間という長期にわたり営業してまいりましたが、2002年3月末をもって閉園しました。同園は、多摩丘陵の緑豊かな自然を生かした「花と緑の遊園地」として、川崎市民をはじめとする首都圏の方々に親しまれるとともに、自然豊かな「生田緑地」の一端を担ってきました。

1. 概 要

(1) 所在地：神奈川県川崎市多摩区長尾2-8-1他

(2) 敷地面積：約21万8千㎡（現況） 向ヶ丘遊園閉園時は約29万㎡

2. 沿 革

- | | |
|---------|---------------------------|
| 1927年4月 | 小田急線開通と同時に向ヶ丘遊園地開園（入園無料） |
| 1952年4月 | 向ヶ丘遊園を有料遊園地として開業 |
| 1958年5月 | ばら苑がオープン |
| 1987年3月 | 大グラウンドの特設エアドームで蘭・世界大博覧会開催 |
| 2002年3月 | 閉園 |